

みんなで考え、みんなで実行!

ちょう じゅう ひ がい たい さく
鳥 獣 被 害 対 策

【野生の鳥獣から農作物を守ろう!】



佐賀市鳥獣害対策協議会
佐賀市農林水産部農業振興課

このパンフレットは佐賀市のホームページで公開しています。地域での話し合いの際などにご利用ください。

目次

このパンフレットは、野生鳥獣による農作物被害対策の基本について、みんなで学べるように作成しました。ここであげていることを基本として、お住まいの地域に合わせた対策を地域みなさんで考えてみませんか？



～鳥獣被害対策について～

- 鳥獣被害はなぜ起きるの？ 3
- まずは相手のことを知ろう 4
【コラム】鳥獣の種類を調べる探偵になろう
- 野生鳥獣が興味をなくす場所にしよう(環境対策) 5
- 柵で囲って農作物を守ろう(防護対策) 6
【コラム】柵を設置してからが本番です
- それでも被害が減らないときは(捕獲対策) 7
【コラム】困っていても、勝手に捕まえたらダメ？
- 地域で続けることができる活動にしよう 8

～野生動物のことを知ろう～

- イノシシの生態や習性 9
- 中型哺乳類^ほの生態や習性 10
- 鳥類対策について 11
- 鳥獣被害対策のまとめ／相談窓口 12

鳥獣被害はなぜ起きるの？

野生鳥獣の出没や農作物被害が増えている原因は様々ですが、その多くは地域内にあります。私たちの生活している周辺の環境が、野生鳥獣にとって「**過ごしやすい場所**」になっているからです。

野生鳥獣が過ごしやすい場所になっていませんか？

野生鳥獣にとって「過ごしやすい場所」とは「**安全な場所がある**」と「**楽にエサが食べられる**」の2つを満たした場所です。

もし、みなさんのお住まいの地域で被害が広がっているようであれば、**無意識に「安全な場所」と「エサ」**を準備して、結果として地域に鳥獣を招いているのが原因です。



人里に現れたイノシシ

■簡単チェック!

野生鳥獣の潜み場所チェック

- 見通しが悪く、人の手が入っていない雑木林や竹林がある。
- 田畑の管理が行われず、雑草が生えている。
- 最近、家屋や田畑以外の草刈りをしなくなった。(河川・空き地・雑木林など)

無意識なエサやりチェック

- 草刈りの頻度が少なく、秋～春にかけても青草が生えているところがある。
- 管理されていない果樹(ミカン・カキ・ビワ・クリなど)が地域内にある。
- 米の収穫後、ヒコバエ(切り株から生えてくる2番穂)や、収穫時に落ちた稲や麦の穂が田んぼに残っている。
- 野菜くずや間引いた野菜などの残渣、生ごみざんさを放置している場所がある。

※残渣…残りがすのこと。農業では収穫時に発生する茎葉や野菜くず、摘果した果実などのこと。

- もしチェックが1つでもついていたら……▶ **「野生鳥獣が過ごしやすい場所」**になっている可能性があります。



まずは相手のことを知ろう

被害を防止するためには、イノシシなど被害をおよぼす鳥獣の生態を知ることが大切です。
みんなで勉強して、正しい知識を身につけましょう。
ここからは、イノシシによる農作物被害を中心に紹介します。
その他の鳥獣ごとの特徴は、P10・11を参考にしてください。



イノシシに踏み荒らされた水稻



ヌタ場(イノシシの泥浴び場)になった水田



日常管理が不十分な侵入防止柵

なぜイノシシはこの田んぼを荒らしたんだろう？
周りの状況から考えてみよう。
5ページも参考にしな。



コラム 鳥獣の種類を調べる探偵になろう

農作物の被害があったり、家の周りに鳥獣が来ているけど、何の動物かわからない…
そんな時は「足あと」「食べのこし」「糞(フン)」を探しましょう。それぞれに特徴があります。
一つだけではわからないこともありますが、いくつかサインが見つければ、わかるかも？
写真を撮っておくと調べやすくなります。

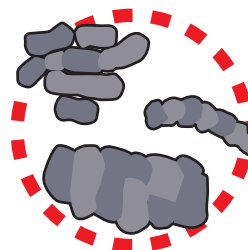


イノシシ

タヌキ

アナグマ

アライグマ



これはだれのフン？



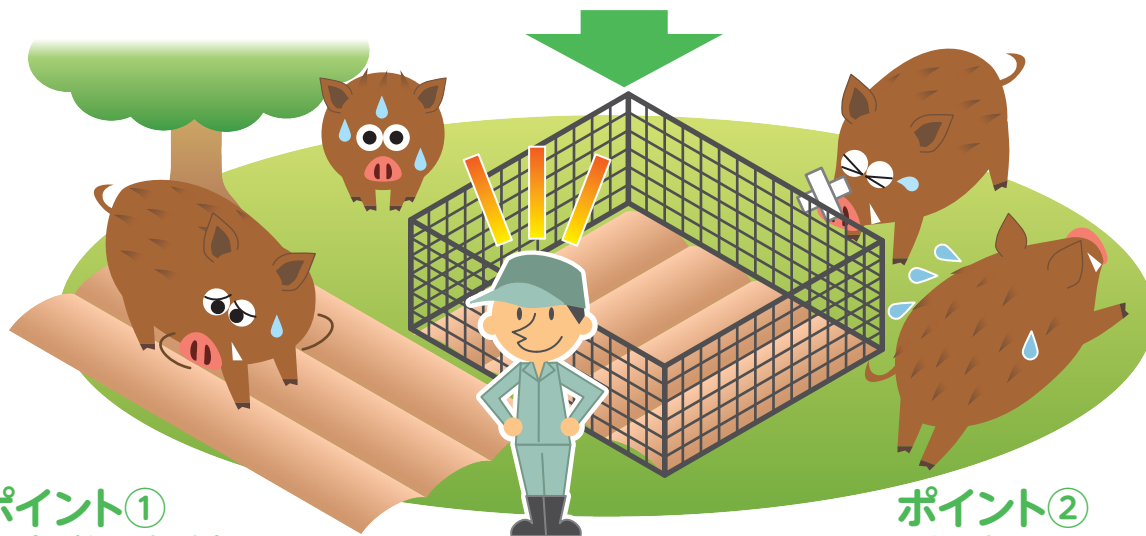
この犯人はだれ？

野生鳥獣が興味をなくす場所にしよう 環境対策

もしかするとみなさんの地域は、野生鳥獣にとって過ごしやすい場所になっていませんか？



- 集落内にある食べ物を食べるために出回している ▶ 危険をおかしてでも食べたい食べ物がある。
- 集落内に草むらなど隠れる場所がある ▶ 見つかる可能性が低くなり、安心して居座ってしまう。
- 侵入防止柵の管理が不十分 ▶ 簡単に田畑の中に侵入する方法を覚えてしまう。



ポイント①
無自覚な餌付けをなくそう!

ポイント②
隠れ場所をなくそう!

- 草刈り ▶ 草刈りに始まり草刈りに終わる。隠れ場所をなくすことが対策の基本です。
- 裏作をしない田んぼのヒコバエ ▶ 耕起をして、穂が伸びないようにしましょう。
- 生ごみ、摘果した果物・野菜 ▶ その場に放置せずに処分を徹底しましょう。
- 収穫しない果樹 ▶ 放置せずに剪定する。収穫予定がない場合、思い切って伐採も検討しましょう。

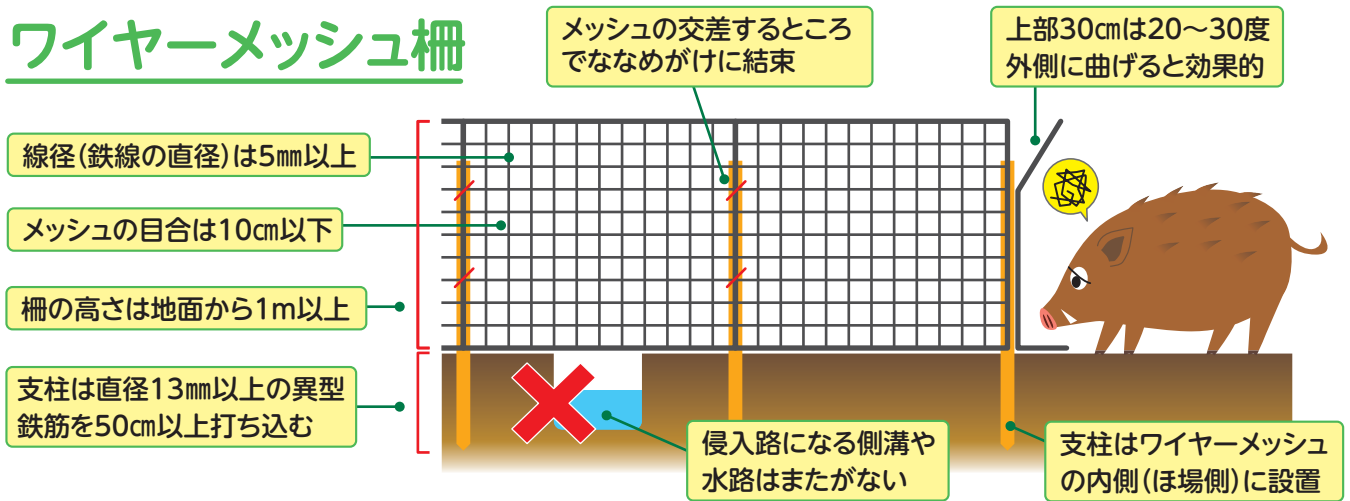
人にとって価値がないモノや場所でも、誘引の原因となります。「どうすればイノシシが困るのか」を考えながら、エサや隠れ場所をなくしていきましょう。



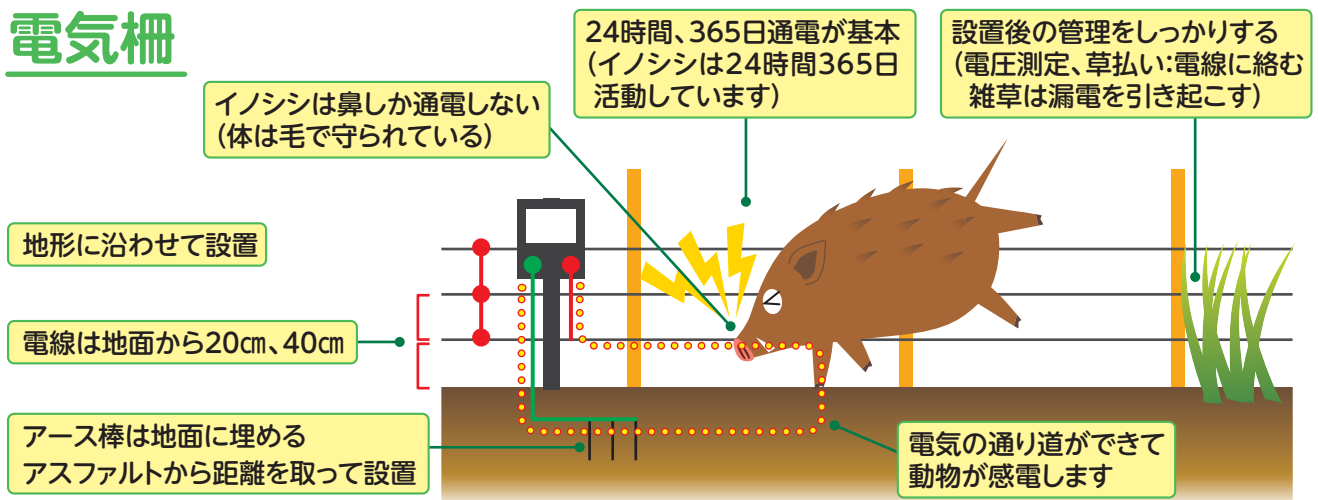
柵で囲って農作物を守ろう 防護対策

農作物を守るためには侵入防止柵を設置することが有効です。しかし、イノシシも食べ物を得るために必死で、あの手この手を使って中に入ろうとします。正しく柵を設置して、こまめな管理を続けることで、侵入防止効果が長続きします。

ワイヤーメッシュ柵



電気柵



コラム 柵を設置してからが本番です

ワイヤーメッシュ柵や電気柵を設置したからもう安心...それは大きな間違いです。

「設置した場所の草刈り」や「侵入しようとした場所の修理」などをこまめに行わないと、気づいたら柵の中にイノシシが入っていることに...

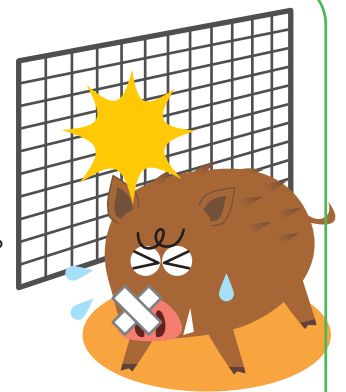
ワイヤーメッシュ柵や電気柵の効果を長続きさせるためには日常の管理が必要です。

まずは草刈り。見晴らしを良くして、少しでも「違和感」を与えることです。

イノシシの気持ちになって考えてみましょう。

ドロボウが家に忍び込む時、丸見えだとどうでしょう？

点検の頻度は多いほどいい。集落みんなで当番制にして月に1~2回行うことを目指しましょう。



農地への侵入防止柵の導入に対して補助を行っています(条件あり)。

また、点検や管理の指導、助言を行っています。詳しくは農業振興課へお問い合わせください。

それでも被害が減らないときは 捕獲対策

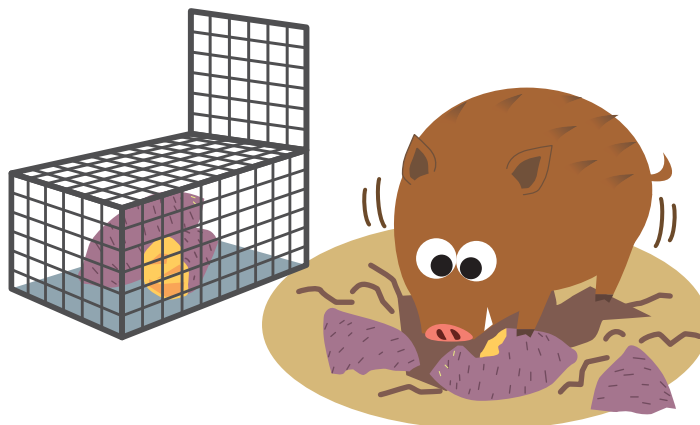
みんなで環境の整備を行い、侵入防止柵を設置しても被害が減らないときは、捕獲対策も選択肢になります。

捕獲をするときは、実際に被害を引き起こしている鳥獣を捕まえないと被害は減りません。

また、捕獲をしようとしても、ワナの周辺にイノシシにとっての「エサ」がたくさんあれば、ワナの中のエサをわざわざ食べようとはしません。



ワイヤーメッシュをくぐるイノシシ



捕獲を考える前に

- 環境対策や防護対策は進んでいますか？
 - ▶集落内にイノシシが食べるものが何もない状況にする。
- 捕獲には狩猟免許が必要です。免許所持者はいますか？
 - ▶許可なく勝手にイノシシなどの野生鳥獣の捕獲はできません。
- 免許所持者と住民との連携が必要
 - ▶地域住民の捕獲への理解と協力がないと効果的な対策につながりません。



コラム 困っていても、勝手に捕まえたらダメ？

野生の鳥獣は、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」で保護されていて、原則として捕獲することができません。

しかし、農作物や生活環境への被害があり、条件がそろえば、有害鳥獣捕獲として許可を受けて捕獲することが可能です。手続きについては、農業振興課にお問い合わせください。

イノシシやサルなど人に危害を加えるおそれのある鳥獣を不慣れな人だけで探したり、捕まえたりするのは危険です。

見かけた時は背を向けず、ゆっくりその場から離れましょう。



初めて狩猟免許を取得した市内在住の方を対象とした取得費用の一部助成制度があります。詳しくは農業振興課へお問い合わせください。

地域で続けることができる活動にしよう

個人で行う対策には限界があります

関係者で情報を共有し、対策を考え、みんなで行動することが大切です。多くの人に関わることで、個人の負担を減らすことにもつながります。

①まずは相手を知ろう

- イノシシの習性や行動パターン、なぜ人里や田畑に来るのかをみんなで理解しましょう。
- 「イノシシが嫌がること」がどんなことなのか知りましょう。

②みんなで現地確認(集落診断)をしよう

- わかっているつもりでも、点検を行うことで現状の再認識ができます。
- どこからイノシシが来ているか、引き寄せる「エサ」や「隠れ場」がどこにあるかを確認します。
- イノシシの痕跡(ぬた場・獣道・足跡)から行動エリアやパターンを調べましょう。
- 侵入防止柵の管理状況を確認(破損・雑草・設置漏れなど)し、修理の必要性や管理方法の見直しをしましょう。

③みんなで共有

- ②で確認したものを地図に記入して、各々が思いついた対策を検討し、みんなで共有しましょう。自分では気付かない対策が見つかるかも知れません。

④欲張らず、少しずつ対策を実行しよう

- 一度に全てを行うのは難しいことです。優先順位をつけて、ひとつずつ確実な対策を続けて行いましょう。
- 草刈りや侵入防止柵の点検を、日時を決めて一斉に行うことから始めましょう。

捕獲だけでは不十分

捕獲
対策

防護対策
(柵で囲う・追い払う)

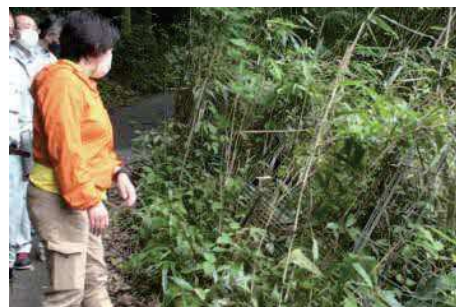
環境対策
(エサ場・かくれ場をなくす)

みんなで勉強、情報共有
(野生鳥獣の特徴、集落の現状)

集落で
対策を
実施



対策講習会の様子



集落点検の様子



地図で点検状況を共有する様子

長く続けることのできる組織づくりを目指しましょう

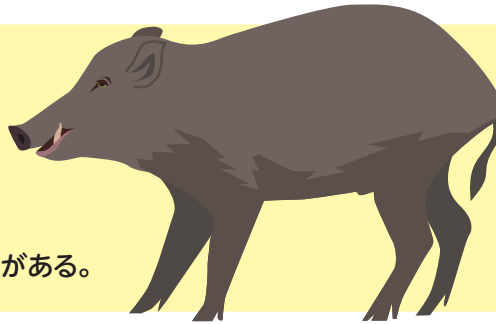
- 農家だけでなく、地域住民と協力した体制をつくりましょう。
- 定期的な話し合いができるように、組織のきまり(規約など)をつくりましょう。

佐賀市鳥獣害対策協議会では講習会や話し合いのお手伝いをしています。詳しくは、農業振興課へお問い合わせください。



イノシシの生態や習性について

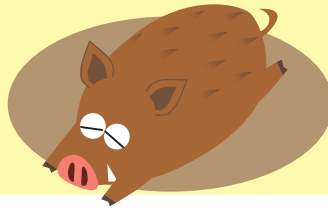
- 野生での寿命は10年程度
- オスは長い牙を持つ
- メスは一回り小さい
- 成獣の体重は約30kg~100kg (佐賀市周辺の個体)
- 体重が30kg程度あれば、生殖能力がある。



足跡 フンのカタチ

性格・行動

本来は臆病な性格だが、慣れると**大胆**な行動をとる



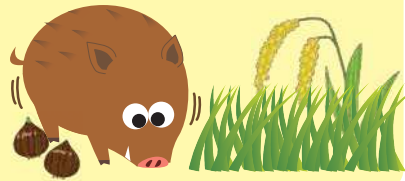
茂みがある場所を好み、**忍者**のように隠れます



活動時間は、**24時間**



野菜、果物、米だけでなく、土手や畑の雑草、球根も**大好物**

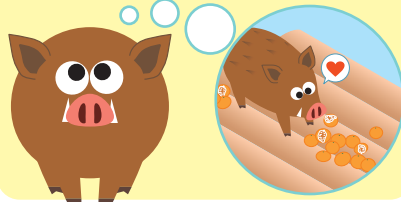


春はタケノコ、秋はドングリ、冬も**冬眠せず**にエサを探します



身体能力

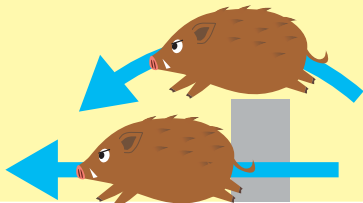
エサを食べた場所を覚えて**忘れない**



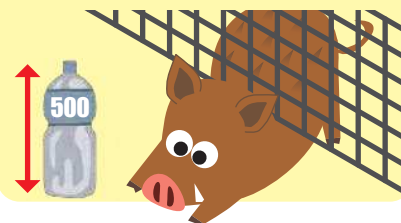
鼻先で**70kg**のものを持ち上げることができる



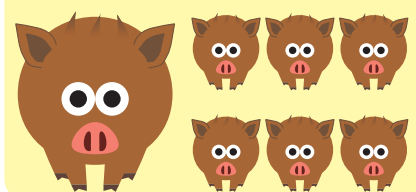
助走なしで**1m**を飛び越え、**時速45km**で走る



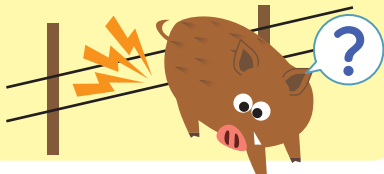
20cmの隙間があればくぐって侵入できる



一度に生む子どもの数は**4~6匹**



体で電気を通すのは**鼻**だけ。
毛は**剛毛**で、電気や有刺鉄線が当たっても平気



幼獣、エサを探してる時の成獣の鼻の高さ **約20cm**

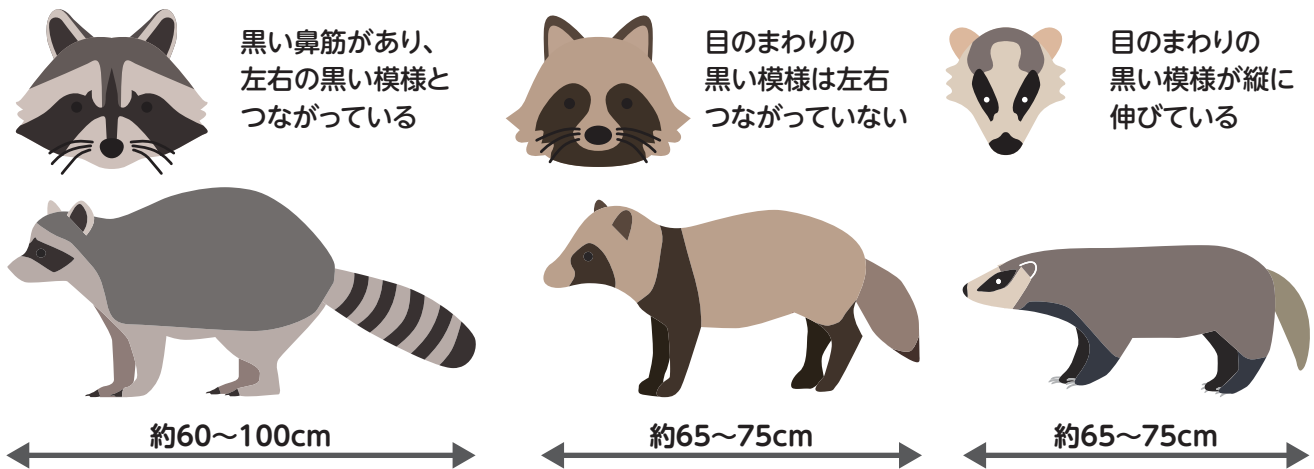


エサを目指して歩いてる成獣の鼻の高さ **約40cm**



ほ 中型哺乳類の生態や習性

アライグマ・タヌキ・アナグマの見分け方



アライグマ 特定外来生物

- 尾には黒い縞模様
- 指は5本で細長く、ものがつかめる
- 爪は短く湾曲しない
- 顔はアイマスクの様な模様
- 食べた跡はきれいな穴が特徴

(4ページのスイカ被害の犯人)



タヌキ

- 前足から肩にかけて黒い帯
- 冬場ずんぐり、夏場ほっそり
- 手足は黒色
- 決まった場所に「ため糞」をする
- 食べた跡はかじった跡が目立つ



アナグマ

- 指は5本で、長い爪がある
- 手足は短く、褐色か黒色
- 耳は小さく先端が丸い
- ずんぐりした体型
- 家の軒下に住み着くこともある



被害を防ぐためには…

ほ 中型哺乳類による被害を防ぐためには「侵入を防ぐ」と「食べられない対策」が大切です。

住まわせない

- ・家の中に侵入されそうな隙間(通風孔など)をきちんとふさぎましょう。
- ・倉庫や車庫でも住み着く場合があります。戸締まりを必ずしましょう。

食べさせない

- ・家の周りにエサとなりそうなもの(生ゴミ・農業残渣^{ざんざ}など)を置かない。
- ・家庭菜園の野菜や果物は、柵・あみで囲んだり、箱に詰めて保護するなど、食べられない対策を直接行いましょう。
- ・決して餌づけをしない。

捕獲する

- ・対策を行っても被害が減らない場合は、捕獲も検討しましょう。
- ・捕獲をするには、必ず許可が必要になります。
- ・捕獲を検討する場合は、農業振興課や各支所にご相談ください。
- ・自分で駆除ができない場合は、専門業者に依頼しましょう。

※アライグマは特定外来生物のため、一定の条件を満たせば、有害鳥獣としての捕獲許可なしで捕獲することが可能です。詳しくは、お問い合わせください。

鳥類対策について

カラスの見分け方

佐賀市内には渡り鳥を含めると主に3種類のカラスがいます。カラスは果樹や野菜などへの農作物被害や騒音、群れによるフン害、巣に近づく人に攻撃するなどの被害をおよぼしています。



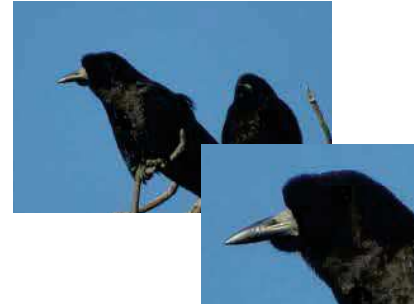
ハシブトガラス(留鳥)

- 上くちばしが太く、湾曲している。
- 雑食性で、肉類や樹木の種子を好む。



ハシボソガラス(留鳥)

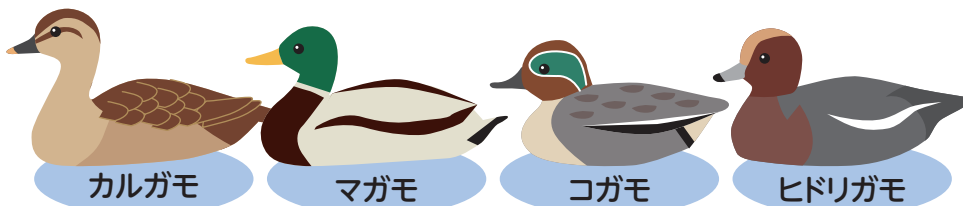
- くちばしは細く、直線的。
- 雑食性で、農作物や昆虫を好む。



ミヤマガラス(渡り鳥)

- 冬の田畑でよく見かける。
- くちばしの根元が露出していて白く見える。
- 雑食だが、特に昆虫や種子を好む。

農業被害を出すカモ類



カルガモ

マガモ

コガモ

ヒドリガモ

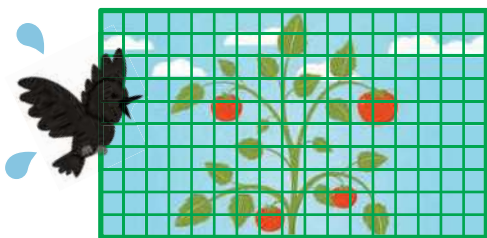


田で麦の若芽を食べるカモ

カルガモは留鳥ですが他のカモ類の多くは渡り鳥で越冬のため飛来します(11月～3月)。春～秋はカルガモが、冬にはマガモ、コガモ、ヒドリガモなどの被害が発生します。佐賀市内での被害の多くは麦の若芽の食害です。他にも養殖ノリを食害しています。

被害を防ぐためには…

音・におい・光での脅しは一時的と言われてしています。設置する場所をこまめに変え、鳥に対して「違和感」を常に与え、慣れさせないようにすることで効果が持続します。



テグスや防鳥ネット



ふきながし



ビニールを使ったふきながし

「いやがらせをする」気持ちでじっくりと対策を続けることが大切です。



鳥獣被害対策のまとめ

1 まずは相手を知りましょう。

対策を行う鳥獣について、しっかりと情報を収集しましょう。そのうえで相手が嫌がることを積極的に実施しましょう。

2 「無意識なエサやり」をなくしましょう。

人にとって価値がないモノでも、鳥獣にとっては栄養価の高い食料になります。生ゴミや農業残渣は放置せずにきちんと処分しましょう。収穫していない果樹は切り倒すことも検討しましょう。

3 田畑への侵入を確実に防ぎましょう。

侵入防止柵は設置後の管理が重要です。周辺の除草や破損箇所の修繕などはこまめに行いましょう。間をあけるとそれだけ労力が増えることとなります。

4 隠れる場所をつくらない。近づきにくい場所にしましょう。

草刈りを行い、見晴らしを良くしましょう。守りたい場所の途中にある、隠れ場所となる茂みをなくしましょう。

5 対策は1日にして成らず。定期的な再点検を！

月単位での点検を行い、長期的に野生鳥獣が近づきにくい環境をキープしましょう。

「ここに来てでもメリットがない」と野生鳥獣に認識させましょう。

対策のポイントは野生鳥獣が近づきにくい環境をつくってキープすることです。そのためには「環境対策」「防護対策」「捕獲対策」をバランスよく組み合わせることが重要です。



相談窓口

農業に関する被害や対策、
捕獲許可に関するご相談

農業振興課農政係 ☎40-7115
各支所総務・地域振興グループ

- 諸富支所 ☎47-4905
- 富士支所 ☎58-2112
- 川副支所 ☎45-8912
- 久保田支所 ☎68-3156
- 大和支所 ☎62-1112
- 三瀬支所 ☎56-2111
- 東与賀支所 ☎45-1022

生活に関する被害

環境政策課生活環境係 ☎40-7200

野生鳥獣を見つけた場合の対処についてはこちらをご覧ください

